

コミュニティ だより

徳島市
徳島市コミュニティ
連絡協議会

〒770-8571
徳島市幸町2丁目5番地
TEL(088)621-5510
FAX(088)621-5511

八万あじさい ロードの紹介

八万コミュニティ推進協議会

武市 到

国道五十五号バイパスの犬野橋北詰の交差点を、文化の森方向に曲がり三百メートルほど先からJR文化の森駅手前までの七百メートルにわたり園瀬川堤防にあじさいが千五百本植えられており、通行するドライバーや堤防を散歩する人の目を楽させています。

全国各地にあじさいロードはたくさんありますが、これは「八万あじさいロード」です。

あじさいの語源は藍が集まって咲くという意味の「集真藍（あずさあい）」から来

ているらしく、そのため花言葉はあじさいの小さな花（実 はガク）がひしめき合って咲く姿や花の色が変化してゆくとところから「移り気」や「無情」「変節」などがある一方、「和気あいあい」「家族」「だんらん」などの様々な花言葉があります。八万あじさいロードは「和気あいあい」の気持ちで毎年なあじさいの手入れと花を楽しんでいます。

あじさいは挿し木で増やせます。このあじさいも二十三年前に佐那河内村大川原高原



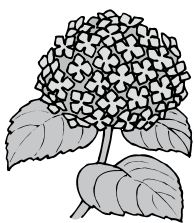
機械による草刈りの様子

のあじさいの穂木（挿し木の枝）を五万本分けてもらい、八万町内の休耕田に毎年五百から八百本の挿し木を続け、半数ぐらいいしか成長しませんでした。三年後の平成十四年に成長した挿し木を園瀬川の堤防に移植しました。移植後二年間は週に三回の灌水と施肥を続けたという事です。

あれから二十年、今もこの手入れを続けているのが八万町各種団体連絡協議会の中の

り残しの下草やツルの除去を大勢の町民の方が「和気あいあい」と今年も美しい花が咲き、皆さんの憩いの場所となるよう願って、手入れに励んでおります。

「園瀬川の清流を守る会」と「八万花の会」の皆さんで、早朝よりボランティアで堤防の面積九千七百平方メートルを草刈り機のエンジン音を響かせ刈り取り、翌日には鎌を持ち刈



八万あじさいロード風景



カマによる手刈りの様子

コロナに立ち向かう

川内南コミュニティ協議会

会長 坂東 敏夫

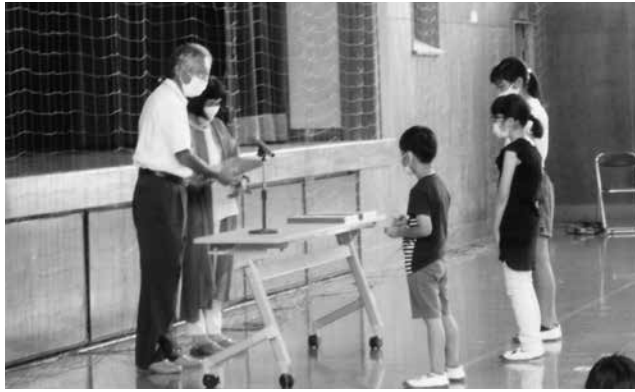
川内南コミュニティ協議会

では、昨年六月二十二日、川内南小学校・幼稚園・学童保育クラブに、新型コロナウイルスの感染拡大を防止する目的で、児童と教職員全員にマスクを贈呈しました。

小学校の贈呈式では、全校児童を前に、次の三つの観点からお話をさせていただきました。

第一は、当協議会についてです。小学生にも理解してもらえよう話すのは難しいと思いますが、以下のように説明しました。

「川内南コミュニティ協議会は、たくさんの町内会の人たちと力を合わせて、『この町で生まれてよかった』、『川内で育つてよかった』と思えるような地域にしたいと願っ



川内南小学校でのマスク贈呈式

第二は、贈呈した時期が暑さのピークを迎える季節でしたので、マスクを着用することで熱中症にならないよう、先生の指導に従って活用してほしいということでした。

第三は、もしも、自分や身近な友達が、新型コロナウイルスに感染してしまったとき

のことです。この点について、次のように語りかけました。

「怪我をしたら痛いよね。病気をしたらつらいよね。怪我をしたくてする人はいません。病気になるたくてなる人はいません。私の好きな歌に『ビリーブ』という歌があります。『例えば君が傷ついて、くじけそうになったときは、

加茂地区の防災訓練

加茂地区自主防災会 会長 小手川詔三

必ず僕がそばにいて、支えてあげるよ、その肩を」

話しているとき、低学年の女の子が、この歌を口ずさんでくれました。この活動を通じて、コロナを始め、様々な危機に立ち向かうには、共に考え行動することが大切であることを再認識することができました。

加茂地区自主防災会連合会の取り組みは、各町内会を単位とした訓練を実施しております。学校・県立防災センター、徳島市消防局予防課及び徳島市防災対策課が実施する各種訓練及び講演会にも参加をしております。また、特色ある活動として、学校「城ノ内中・高・城北・徳島中央・徳島科学技術の各高校・城西中学校」、県立障害者交流プラザ、加茂児童館が毎年実施する防災訓練に近

隣住民も参加し一緒に訓練を行っています。一方、災害について目を向けてみますと、近年世界の各地で発生している山林火災や豪雨による洪水災害が多発しています。これらはいずれも地球温暖化が要因との指摘があります。今や限られた地球資源の浪費時代ではありません。ひと昔前までは一時間に三十ミリの雨が降るとものすごい

隣住民も参加し一緒に訓練を行っています。一方、災害について目を向けてみますと、近年世界の各地で発生している山林火災や豪雨による洪水災害が多発しています。これらはいずれも地球温暖化が要因との指摘があります。今や限られた地球資源の浪費時代ではありません。ひと昔前までは一時間に三十ミリの雨が降るとものすごい

隣住民も参加し一緒に訓練を行っています。一方、災害について目を向けてみますと、近年世界の各地で発生している山林火災や豪雨による洪水災害が多発しています。これらはいずれも地球温暖化が要因との指摘があります。今や限られた地球資源の浪費時代ではありません。ひと昔前までは一時間に三十ミリの雨が降るとものすごい



県立障害者交流プラザ「防災訓練」

と思っていました。今日では五十ミリ、百ミリの豪雨被害で、避難生活を余儀なくされています。上勝町の「ゼロ・ウェイスト」が注目され加茂地区衛生組合連合会主催の研修をしたことがあります。四十五種類分別をし、なんとリサイクル率八十パーセントを達成しているそうです。せめて私たちは徳島市が定めている八種類分別を厳守したいものです。私たちは炭酸ガスを排出しない取組みによって地球変動による災害を抑え、子孫に引き継ぐ責任があると思います。

さて、令和二年度に十年ぶり開催となる徳島市総合防災訓練（加茂地区）を計画して

いました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大により令和二年度から二年間延期となっております。令和四年度にはぜひとも感染症対策を踏まえた防災訓練を実施したいと考えております。実施にあたっては、広く住民に参加を呼びかけたいと考えています。徳島市より届いた「避難所開設キット」を活用



加茂公民館学遊塾「まなぼうさい教室」

して個別の事前訓練を実施したいと考えています。

国府女性会の活動について

国府女性会 美馬 潤子

国府女性会は、以前婦人会として活動していた会が解散した為、その後を引き継ぎ、二〇一九年十月より新しいメンバーを再構成し活動を開始しました。現在会員数は十七名。その構成は民生委員や体育協会の方等です。

主な活動は、

- ① 国府文化祭におけるバザーの出店
 - ② 町内の福祉・ボランティア活動や美化活動に関する事
 - ③ 会員の自己啓発に関する事などです。
- しかし、会の発足後間もなくコロナがまん延し、活動の

自粛やその内容の精査を余儀なくされました。

現在までの実施内容は次の通りです。

- ① 二〇一九年十一月文化祭
- バザーの出店（調理・販売）たこ焼き、ポップコーン、うどん
- ② ボランティア活動



コミセン・プランターの植え替え

- ぬいぐるみ作り、成人式行事の補助、コミセン・プランターの植え替え、南環状線道路周辺の清掃
- ③ 講習会の実施

ひな作り、絵手紙、ハーバリウム、クリスマス飾り、寄せ植え、ソープカービング

現在、少しずつコロナも収束しつつある様にみえますが、皆が安心して活動できるまでにはまだ少し時間が必要かもしれません。

今までは会員同士ゆっくり時間を掛けて話し合う機会も

持てなかつたのですが、そういう時間を大切にしつつ今以上に活動の幅を広げていきたいと考えています。

国府女性会のモットーは、「決して無理をせず、人のため、自分のためになる事を楽しく活動する事」です。



寄せ植え



南環状線道路周辺の清掃

避難所トイレ

対策検証訓練

渭北街づくり協議会 近藤 辰夫

令和四年三月十九日(土)

徳島県・徳島市の主催で表題の訓練を渭北コミセンで行いました。県とくしまゼロ作戦課と市防災対策課の呼びかけに当地区の自主防災会連絡協議会(以下、自主防)と婦人防火クラブが協力する形で「避難所のトイレをどのように設置・運用すべきか」を検証する訓練でした。

渭北地区には市指定避難所が七カ所あり、平成二十九年にこの避難所における「避難所運営マニュアル」を作成し各避難所運営委員を組織するとともに各避難所内のレイアウトを作成しました。しかし、まだまだ現実感が希薄であったためか「実際に運営できるのか!」といった不安感はつきまっています。

こうしたタイミングで県・

市からの依頼があったためお受けしたわけですが、当日は各種レンタルトイレの手配やアドバイザー「日本トイレ研究所」

加藤篤氏の招聘などの方を県・市の方々がやっていた。我々は参加して研修を受けるだけでした。

まずは我々が作成していた避難所の屋内・屋外レイアウトをもとに実際に簡易トイレを組み立て目隠しネットの設置を行いました。この作業のあと、汚物の処理方法と運び出し



プラダントイレの組み立て



終了後の意見交換

ルートの検討を行いました。想像以上の汚物が溜まることを指摘いただき、運び出しルートの変更と一時保管場所

の確保を早急に検討することとしました。
また、既存の水洗便所を発生初動期にどのように使うのか、マンホールトイレをどのように使うのかをご指導いただき、最新式の自己処理型トイレや要支援者用トイレなどの実物を見学し体験もさせていただきました。そして終了後はアドバイザーの加藤氏か

ら実際に被災地で体験してきた見地からのアドバイスをいただき、実に有意義な訓練を行うことができました。これらの訓練を県・市が検証した結果を「避難所トイレ活用マニュアル(仮称)」として県内に広めていく方針であることもお聞きしましたので皆さま方の各地域でも参考にされたいと思います。

第10回津田の歴史・史跡めぐり&防災ウォーク

津田コミュニティ協議会



「さあ、出発！」

「親・子・孫の三世代が、津田の町に残された史跡や文化を知ることで、町のすばらしさを再発見し、郷土を愛し大切にすることを育てる」という目的で開催されてきた「津田の歴史・史跡めぐり&防災ウォーク」も今年度で十年目を迎えました。

秋晴れに恵まれた十一月二十日（土）、八十数名の町民

が津田コミセンに集合しました。開会式の後、二班に分かれて津田コミセン屋上（緊急避難所）・与茂田の波切り不動明王・与茂田港・海岸堤防の顛末・懐恩の碑・県営松原団地屋上（緊急避難所）・徳を讃える碑・お台場・お亀神社と、津田町の東半分の史跡を巡りました。緊急避難所では自主防災会の方から避難の心得や、各史跡では担当者からの説明を熱心にメモを取りながら聞き、故郷の歴史を学び、心地よい汗をかいていました。最後に、〇×クイズで島田会長から各ポイントに関する問題が出され、説明を思い出しながらクイズに挑戦していました。

十年目を迎えたこの行事は、津田・新浜町内を四区分して一年ごとにローテーションで巡っています。その数日前には、コミュニティ協議会の環境部の人たちが、各ポイントの除草・清掃をしてくれます。当日は文化部長が主な説明者となります。説明者は事前に「津田の歴史・史跡めぐり（平成二十四年、津田コミュニティ協議会発行）」という冊子を参考に勉強したうえで、参加者に分かりやすく説明をしてくれます。また、写真の法被を着ている人は、コミュニティ協議会の役員で、当日の受付から検温・手指消毒の世話、参加



メモを取りながら真剣に！

者の誘導・安全確保に当たってくれます。

このように、ボランティアの人たちに支えられ、高齢者から子どもたちまでが参加して交流を深めながら、故郷の歴史に触れることができる行事を、今後も十五年、二十年と続けていきたいものです。



住みよい地域を

目指して

西富田婦人会 渡辺 澄子

美しい住みよい地域にするために、私たちはゴキブリの駆除、清掃活動、焼却ゴミ減量等に取り組んでいます。春の訪れとともに動き出すゴキブリを駆除するために、当会では毎年新玉葱の出るの

を待ちかねてゴキブリ団子を作っています。主原料のホウ酸とすりおろした玉葱その他を加えお団子にし、一週間ほど天日干しすると出来上がります。毎年八

個人入りパックを二百個以上も作りますが、希望者が多く不足するほど好評です。長年続けているので、倉庫で



ゴキブリ団子の天日干し

チヨロチヨロしていたゴキブリもほぼ見なくなりました。また、五月三十日の語呂合わせのごみゼロの日は婦人会の恒例行事です。早朝七時からゴミ袋を手に各地に散らばり美しい町内にしていきます。

八月お盆前と十二月お正月前には、コミュニティ総出で缶カラカン作戦と名付けられた清掃活動をしています。

九月下旬には、衛生組合を中心に、プランターに花苗を植え付けて、通行の妨げにならない場所で、手入れをしていただけるお宅の前で置きさせていただきます美しい街づくりに取り組んでいます。

高齢化も進んでいるなかですが、参加の方も増えて活動が活発にできていることは本



プランターへの花植え

当に喜ばしいことです。今後も住みよい地域にするために、みんなで努力したいと思えます。



ゴミゼロの清掃

編集後記

令和四年度もまだまだ新型コロナウイルス感染症からは抜け出せませんが、感染症対策をしながら少しずつコミュニティの活動が再開されていこうとしています。コミュニティだより九十二号をお届けします。

八万地区からはあじさいロード維持管理の紹介。川内南地区からはマスク贈呈式の思い。加茂地区からは防災の意識付けの取り組みの紹介。国府地区からは女性の活動報告。渭北地区からは避難所に設置できる簡易トイレの運用方法についての検証。津田地区からは十年も続いている歴史散歩と防災を組み合わせた活動の紹介。西富田地区からは婦人会の特色ある取り組みの紹介をしております。

今後新型コロナウイルス感染症対策がインフルエンザ並の対応になるまで感染対策をしっかりし、自由な活動を取り戻したいものです。

各地区の活動を参考にして各地区を盛り上げていきましょう。

(大川良文 記)